



はじめに

60年間の歩み

- 1961(昭和36)年3月 仙台市博物館(旧館)開館
- 1983(昭和58)年3月 建替に伴う3年間の休館に入る
- 1986(昭和61)年3月 新館開館
- 2010(平成22)年4月 総合展示室等リニューアル
- 2011(平成23)年3月 東日本大震災により被災、休館し、7月全面開館
- 2021(令和3)年10月 大規模改修工事に伴う2年半の休館に入る

収蔵資料 当初 約1万3千点 → 現在 約10万点

展覧会開催 約300回

総観覧者数 約830万人

大規模改修工事の趣旨・内容

1 趣旨

収集・保管・展示・調査研究・教育普及という博物館の使命を引き続き果たしていくための改修

2 内容

(1)施設の長寿命化

- ・老朽化した機械設備、電気設備等の改修、照明LED化
- ・資料収蔵スペースの狭隘化の改善

(2)展示室リニューアル

- ・未改装展示室の改装、照明LED化

2

どう変わる博物館

- 1 収蔵資料の保管環境の向上
- 2 展示・鑑賞環境の向上
- 3 来館者アメニティの向上
- 4 その他、設備改修
- 5 休館期間を活用した機能強化

3

1 収蔵資料の保管環境の向上

(1)空調設備(全15台)の更新

- ・老朽化による故障
- ・交換部品が製造終了、保守管理に限界

事例①

自動制御機器故障(2019年2月)

→部品調達に3日を要したため、収蔵庫 I の空調を手動運転対応

事例②

空気調和機故障(2019年8月)

→ファンが破損し、修理完了までに2か月を要し、その間資料の一部を別室に移動、保管

4

1 収蔵資料の保管環境の向上

(1)空調設備(全15台)の更新



空気調和機



自動制御機器

空気調和機に指示を出し温湿度を管理

5

1 収蔵資料の保管環境の向上

(2) 収蔵スペースの拡充

- ・ 収蔵資料の増加による収蔵容量の限界
 ※1986年 約6万4千点 ➔ 2023年 約10万点
- ・ 収蔵スペースの狭隘化による空気循環の悪化



- ・ 資料室2室を収蔵庫に改装
- ・ 講習室を書庫に改装し、収蔵庫保管の書籍を移動
 ➔計約70㎡増

6

1 収蔵資料の保管環境の向上

(2) 収蔵スペースの拡充



書庫Ⅱ (旧講習室)



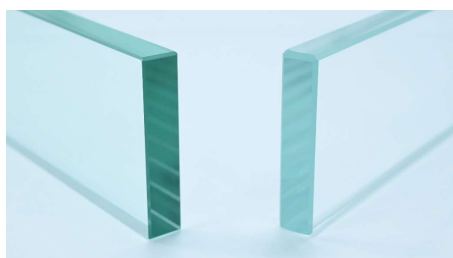
収蔵庫Ⅳ 屏風棚(26隻分)を新設

7

2 展示・鑑賞環境の向上

(1)高透過ガラスの導入(企画展示室・テーマ展示室Ⅰ・Ⅱ)

従来のガラスは、含有される酸化鉄により、緑がかって見えるが、高透過ガラスは酸化鉄の含有量を極力少なくすることで透明度を確保。資料をより正確な色で鑑賞できる。



従来のガラス

高透過ガラス

8

2 展示・鑑賞環境の向上

(1)高透過ガラスの導入



企画展示室 総延長58mに及び壁付展示ケース(当館最大)

9

2 展示・鑑賞環境の向上

(1)高透過ガラスの導入



テーマ展示室 I

従来のガラスには中央に継ぎ目



テーマ展示室 I

中央の継ぎ目が解消し具足をより見やすく

10

2 展示・鑑賞環境の向上

(2)照明設備のLED化、機能向上



テーマ展示室 II

- 従来の電球は紫外線と熱を発生
- 資料展示後のライトの角度調整が困難



- 紫外線や熱の発生を抑え、資料の劣化を抑制
- タブレット操作により、ライトの角度や色温度の調節ができ、展示品を引き立てる効果的な照明が可能

11

3 来館者アメニティの向上

(1) トイレ改装



1階ひろびろトイレ

①全トイレ

- 手洗いを自動水栓に

②1階ひろびろトイレ

- オストメイト対応トイレに改良

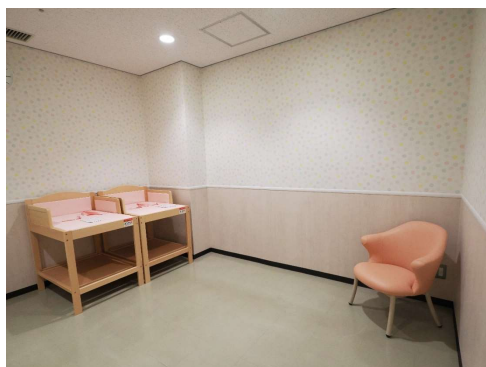
③1階・2階ひろびろトイレ

- ベビーチェアを新設
- 触知図を新設

12

3 来館者アメニティの向上

(2) 乳児休憩室改装



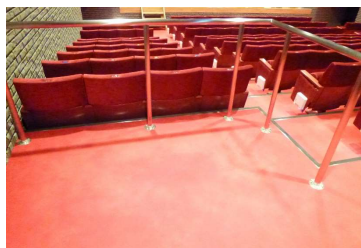
- 流し台の拡張、給湯設備の新設でミルク作り等が可能に
- 壁紙を張り替え、明るく安心できる空間に
- おむつ交換台を2台に増設・更新

13

3 来館者アメニティの向上

(3)ホール改修

- 客席の布地や通路のカーペットを張替え
- 音響・照明・舞台の幕を更新
- 車椅子利用者用スペースを拡充



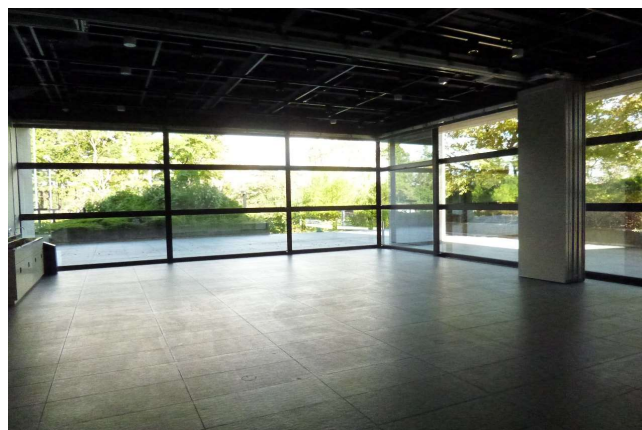
車椅子利用者用スペース
(後列左右合わせて4台分)

14

3 来館者アメニティの向上

(4)ギャラリー改修

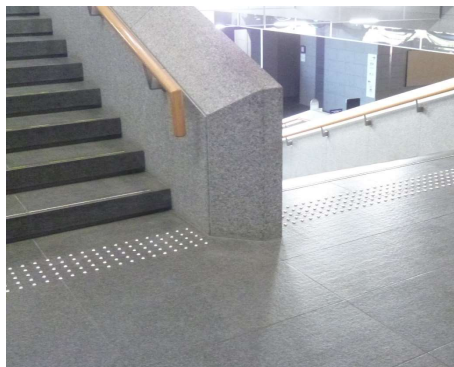
講座やワークショップ、レセプション等、多目的な用途に対応できる
スペースに一新



15

3 来館者アメニティの向上

(5)ユニバーサルデザインの考え方による案内機能の充実



階段に点字ブロックを新設



触知図を新設

16

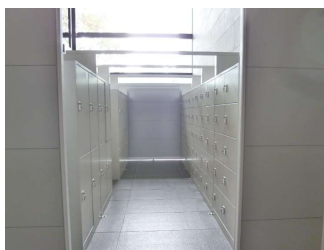
3 来館者アメニティの向上

(6)ロッカー増設

- ・ エントランスホール 66箱(内大型16箱)
 - ・ 情報資料センター 4箱
- ➡既存のロッカー室内(受付横)100箱と合わせて170箱に



エントランスホール



情報資料センター

17

3 来館者アメニティの向上

(7) レストラン、ミュージアムショップのリニューアル

① レストラン（運営事業者：株式会社モーツァルト）

- ・ 国際センター駅、萩ホール等5店舗を運営
- ・ 季節や展覧会などに応じた柔軟なメニュー展開



画像はイメージです

18

3 来館者アメニティの向上

(7) レストラン、ミュージアムショップのリニューアル

② ミュージアムショップ（運営事業者：株式会社オークコーポレーション）

- ・ 九州国立博物館や江戸東京博物館等、全国27か所のミュージアムショップを運営
- ・ オリジナルグッズ開発やWeb販売を積極展開



画像はイメージです

19

4 その他、設備改修

- (1)電気設備 分電盤・電気ケーブル更新
- (2)防災設備 非常用自家発電設備・火災報知設備・スプリンクラー更新
- (3)防犯設備 防犯カメラ更新、増設、防犯センサー更新
- (4)館内照明のLED化
- (5)外壁修繕 劣化補修、洗浄、コーティング
- (6)イベント広場修繕 階段等のタイル補修、洗浄

20

5 休館期間を活用した機能強化

(1)デジタルアーカイブの推進

- ・ 国宝、重要文化財指定の収蔵資料をはじめとする約1,500点の情報をデータベース化、令和6年3月よりインターネット上に公開（公開点数は順次拡大）
- ・ 来館が難しい方も当館収蔵資料の検索・閲覧が可能となり、当館ユーザーの裾野が拡大、学校教育での活用も
- ・ 10万点を超える収蔵資料の業務データ管理労力が大幅に軽減することで、調査・研究活動の充実も期待

21

5 休館期間を利用した機能強化

(2) 動画制作・発信による教育・普及活動への活用

- ・ 休館中に6本の番組を制作
- ・ 学校での活用を促すPRと新規コンテンツ制作の検討



伊達武将隊とのコラボ動画



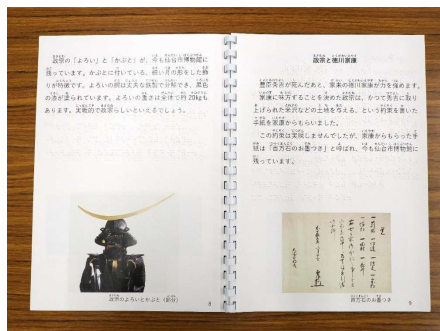
教員向け博物館活用研修

22

5 休館期間を利用した機能強化

(3) ユニバーサルデザイン促進

- ・ 視覚に障害のある方をはじめ様々な人が楽しめる冊子を制作、図書館等に配付
- ・ 福祉団体と連携した案内表示や解説手法の課題洗い出し



点字拡大文字版「よくわかる! 伊達政宗」



障害のある方を講師に招いた研修会

23

5 休館期間を利用した機能強化

(4) 観覧しやすい常設展示へ

- ハンズオン展示
- 音声ガイドアプリの館内使用環境整備
- ポイントを絞った観覧コース案内
- 仙台領国絵図の拡大図閲覧ケースを設置



仙台領国絵図

24

長らくお待たせいたしました
一同、再会をお待ち申し上げます



25